

《提言 1》

市立幼稚園の3年保育の実施と適正配置について

1 モデル園での3年保育の先行実施（平成29年度）

市立幼稚園の3年保育への移行に当たっては、地域的な就園ニーズは把握できるものの実質的な就園希望者数は不明確であるため、3園程度をモデル園に指定して試行的に先行実施し、その必要性や効果を検証する必要がある。

- (1) 先行実施する園を選定する場合、他施設との関係を含めた地域バランスや地域的な就園ニーズ等を十分考慮する。
- (2) 3歳児の定員は、1学級20人とし、各園に1学級を設置する。
- (3) 学級増に伴い、エアコンやシャワーなど必要な設備を整備するとともに、研修等を通じて教職員の資質の向上を図り、適正な人員配置に努める。

2 他園への3年保育の拡充（平成30年度以降）

他園への3年保育の拡充に当たっては、試行的に先行実施した園での就園状況や成果、地域的な就園ニーズ等を十分検証し、その可否を判断する必要がある。

- (1) 3年保育を拡充する園を選定する場合、他施設との関係を含めた地域バランスや地域的な就園ニーズ等を十分考慮する。
- (2) 3歳児の定員は、1学級20人とし、各園に1学級を設置する。
- (3) 学級増に伴い、エアコンやシャワーなど必要な設備を整備するとともに、研修等を通じて教職員の資質の向上を図り、適正な人員配置に努める。
- (4) 地域的な就園ニーズが低い等の理由により3年保育に移行しないと判断した園は、地域事情等を考慮しながら統廃合の検討に着手する。

3 適正配置の検討、実施

市立幼稚園の中には、園児数が著しく少なく、子どもたちが集団生活を通して自主性や社会性を育むことが困難な状況にあると判断できる園がある。そのような園については、適正な教育環境を提供できるよう統廃合を検討、実施する必要がある。

- (1) 統廃合する園を選定する場合、今後の園児数の動向や近隣の私立幼稚園

や認定こども園との関係等の地域事情を十分考慮する。

- (2) 統廃合の対象となった園においては、在園児の保護者に丁寧に説明し理解を得るとともに、段階的に園児の募集を停止する。なお、在園児の中で転園を希望する場合には、適切な対応に努める。